

(案)

令和7年度第1回渋谷区景観審査会 議事録

1 開催日時及び場所

令和7年4月28日(月) 開会 午後1時30分
閉会 午後4時15分
渋谷区役所本庁舎 8階 801-1、801-2 会議室

2 出席者

- ・ 委員 遠藤新 会長、吉田慎悟 副会長、倉田直道 委員、福岡孝則 委員
- ・ 事務局 都市整備部都市計画課 中村都市計画課長、
樋口土地利用審査係長、
内田土地利用審査係員、小林土地利用審査係員
- ・ 参考人 (1) 議題1
東急不動産株式会社
株式会社日本設計
(2) 議題2
大建・SUPPOSEDESIGNOFFICE 設計共同企業体
渋谷区教育委員会事務局 堀江未来の学校担当課長、
岡部未来の学校担当課長
(同事務局) 教育政策課 美濃部学校施設整備第二係長、
田邊学校施設整備第二係員、
八木学校施設整備第二係員、
大沢学校施設整備第二係員
渋谷区経営企画部施設整備課 矢野施設整備第二係員、
渋谷施設整備第二係員

3 配布資料

- (1) 令和7年度 第1回 渋谷区景観審査会 次第
- (2) 「渋谷区景観条例に基づく良好な景観形成に関する審議について(諮問)」 写し1枚
- (3) 「渋谷区景観条例に基づく事前協議について(諮問)」 写し1枚
- (4) 「(仮称)神南一丁目地区市街地再開発事業 渋谷区景観審査会資料」
- (5) 「代々木中学校建設工事 渋谷区景観審査会資料」

4 会議に付した議題

- (1) 議題1 諮問案件(第1号案件)「(仮称)神南一丁目地区市街地再開発事業」

(案)

- (2) 議題2 諮問案件(第2号案件)「代々木中学校建設工事」

5 議事の要旨

- (1) 遠藤景観審査会長、第1回渋谷区景観審査会の開会を宣す。

- (2) 議題1 諮問案件(第1号案件)「(仮称)神南一丁目地区市街地再開発事業」

(概要)

協議者 神南一丁目地区市街地再開発準備組合

報告者 東急不動産株式会社
株式会社日本設計

行為の場所 地名地番：渋谷区神南一丁目35番1～7、36番1～9、41番25～38、41
住居表示：渋谷区神南一丁目(以下未定)
地域の別 一般地域 商業・業務地系市街地

- ・中村都市計画課長、諮問文を読み上げる。
- ・参考人として、東急不動産株式会社、株式会社日本設計が入室し、計画の概要を説明する。質疑応答後、参考人は退室し、委員が意見を述べる。

(質疑応答)

- 立体的な回遊動線と緑について
 - 立体的な回遊動線と緑と室内空間がどのように相互作用して空間を作り上げるか詳細に伺いたい。(委員)
 - 外部空間にある緑もなるべく内部に取り込んで、施設内部からも緑を感じられるような構成にしたいと考えている。(報告者)
 - 平面の構成では立体的な回遊動線と緑と室内空間が相互に作用する空間かどうか確認できない。これらが相互作用して新しい空間を生めるのかが、本計画のポイントになると思う。公共性のある緑地と室内空間を一体的に利用するセミパブリックのような使い方もできるのでは。(委員)
 - 補足すると、外周部の緑の近くまで人が行けるようにするとまちと賑わいの親和性が高まると考えている。一方で人が入れる部分は容積対象となるため事業性も考慮しながら検討を深めていきたい。(報告者)

(案)

- 水害対策について

- 神宮通り側は浸水の危険性がある場所であるが、何か対策等を講じているか。
(委員)
- 神宮通り側を中心に防水板で対策をしている。また万が一に備えて重要な電気室や発電機室は上層に配置するように計画している。(報告者)
- 本計画として当該敷地の雨水の処理を排水という概念だけでなく、サステイナビリティの観点からも考えていくことが大切なのではないか。(委員)
- 5、6階から1階まで緑を計画し、水のカスケードを設置することは可能か。(委員)
- 検討可能である。(報告者)

- 貫通通路と滞留空間について

- 公園通りに向けて貫通通路が3本あることはアピールポイントになると思う。
(委員)
- 南北と東西の貫通通路上のタワーについて、吹き抜けをずらすように配置することで、広場を設けている。パルコ前の広場まで抜けを感じ取れるようになっている。(報告者)
- 視覚的にも人の流れ的にも、自然に通り抜け通路を作ることが重要となる。蓄積されてきたストリートの文化をうまく繋いでいける形を検討してほしい。(委員)
- 貫通通路の位置を廃道予定の道になぞらえ、その土地の記憶を残しながら、滞留空間を作ろうと意識している。(報告者)
- 渋谷ストリームのように使いたくなるような広場があると良い。人が滞留する階段に面してお店を作ったり、バリアフリーにしたりするなど、デザイン上の工夫が重要である。(委員)

- 高層部のデザインについて

- 階段やエスカレーターなど垂直の動線や連続性はあるが、パブリックスペースと店舗の繋がりはいまいち感じられる。低層階だけでなく、中・高層階においても建築物内部の計画と緑のデザインを関連づける工夫を検討していただきたい。(委員)
- 広場のスケール感と内部空間でどのようなアクティビティを起こしていくかについて、検討を深めていく。(報告者)

- 外壁等の色彩について

- 中間部の白い箱部分の素材はエキスパンドメタルを想定しているのか。(委員)

(案)

- エキスパンドメタルを使用するかは確定していないが、視線を透視するような金属系の塗装を行い、白くしようとしている。(報告者)
 - 色が白いと内から外が見えづらいため、うまく処理をしてほしい。サッシの白い帯部分はどのように処理を行うのか。(委員)
 - アルミカーテンウォールの白い帯部分（パネル部分）については、反射の少ないマットな白を想定しており、切り欠いた緑がより強調されるよう工夫を行う。
(報告者)
 - 開口部の色の対比がうまく処理できていないように感じる。夜景での見え方も鑑みながら、明度を調整していただきたい。(委員)
- 神宮通り側のアクセスについて
 - 神宮通り側のアクセスを良くするために、東西貫通通路先の広場空間について、単なる出入口ではなく、視覚的にもアクティビティ的にも魅力的になる工夫をしていただきたい。(委員)
 - 神宮通り側の階段の踊り場に、店舗を計画している。テイクアウト利用できるなど、小スケールの滞留空間を設ける予定である。(報告者)
- 樹種の選定について
 - パルコの屋上や近隣公園など近接する緑地の種類も加味して、樹種の選定を行っていただきたい。働く人のウェルビーイングに寄与し、生き物にとっても心地よい緑をバランスよく検討するべきである。(委員)

(審議)

- ・渋谷区景観条例施行規則第 30 条の規定により非公開

(案)

(3) 議題2 諮問案件(第2号案件)「代々木中学校建設工事」

(概要)

協議者	渋谷区長 長谷部健
報告者	大建・SUPPOSEDESIGNOFFICE 設計共同企業体
	渋谷区教育委員会事務局 堀江未来の学校担当課長、 岡部未来の学校担当課長 (同事務局) 教育政策課 美濃部学校施設整備第二係長、 田邊学校施設整備第二係員、 八木学校施設整備第二係員、 大沢学校施設整備第二係員、 渋谷区経営企画部施設整備課 矢野施設整備第二係員、 渋谷施設整備第二係員
行為の場所	地名地番 渋谷区西原一丁目46番1、47番1、2 住居表示 渋谷区西原一丁目46番1号 地域の別 一般地域 住宅地系市街地

- ・中村都市計画課長、諮問文を読み上げる。
- ・参考人として、大建・SUPPOSEDESIGNOFFICE 設計共同企業体、渋谷区経営企画部施設整備課、渋谷区教育委員会事務局、同局教育政策課が入室し、計画の概要を説明する。質疑応答後、参考人は退室し、委員が意見を述べる。

(質疑応答)

- 緑の構造について
 - 外周植栽と屋上植栽、バルコニー植栽全体の緑量の目標値は設定されているのか。正門右に緑を増やすことで、夏場のピロティスペースの暑熱を和らげることができると思う。(委員)
 - 緑化率は、敷地面積に対して25%程度の計画になっている。グラウンドを面積から除外すると、もう少し緑化率が高くなる。(報告者)
 - 排水ピットとして1m取っているが、必要なのか。排水と緑を植栽ますとして一体でデザインすることで、落ち葉が溜まることを防ぐことができると思う。(委員)
 - 児童がよじ登れないように、植栽帯のレベルを下げ排水スペースを確保している。また、植栽帯にドレーンを作ると、土がたまって水が溢れてしまう可能性があり、現状の計画になっている。(報告者)

(案)

- 児童の落下防止と灌水防止が最低限必要な考え方になるが、側溝は1m もいらないと考える。敷地内に降った雨を効率的に貯留できるような仕組みと緑量が必要である。外周植栽を目隠し的に使うことが森の学校というコンセプトに相応しいか、しっかりと検討していただきたい。(委員)
- ピロティプロムナードについて
 - ピロティプロムナードに沿って緑を増やすことで、太陽熱が緩和できるかと思う。(委員)
 - グラウンド面積との兼ね合いになるが、グラウンドとピロティプロムナードの間に中低木を植えることは可能である。(報告者)
- 外壁及び擁壁の圧迫感について
 - 屋外テラスを設けているが、建物側に腰壁があるため開放的になっていない印象を受ける。壁の立ち上がりが2m 以上あることで、学校内の活動が外から見えないようになっているがどのように考えているのか。(委員)
 - 住宅街のため、学校内から近隣住宅が見えないように計画している。(報告者)
 - プライバシーは重要であるが、外から見た際に圧迫感を感じないように、閉じ方の工夫が必要である。(委員)
 - 擁壁上の手摺外側に緑を配置して、擁壁の圧迫感を軽減させていただきたい。(委員)
 - 壁を大きく見せないように、下垂型植栽を入れていくことは可能。(報告者)
- ラーニングコモンズの在り方について
 - ラーニングコモンズが周囲を教室に囲まれた大空間になっているが、サイズを小さくして個別配置したほうが居心地良い空間になると思う。(委員)
 - 渋谷区では授業時間の特例制度を用いて、午後の時間を探求学習に充てており、その際ラーニングコモンズを活用予定である。ディスカッションやプレゼンができるような空間を要望されており、大規模空間を設計している。ラーニングコモンズ内に庭園のような空間を作ったり、クールダウンやカームダウンできる部屋を作ったりできるように、家具を工夫したいと考えている。また、長期使用を想定しているので、教育環境が変わった際にも対応できるようにスケルトン・インフィルの考えを用いて大規模空間で計画している。(報告者)
 - 体育館に近い広さになっているため、うまく機能するのか気になっている。(委員)
 - 児童の居場所づくりについて、ラーニングコモンズだけでなく半屋外空間に作れないか検討していただきたい。(委員)

(案)

- 目線や音の観点から、家具や間仕切りの設置を検討中である。児童の居場所づくりという観点では、ラーニングコモンズとは別にアートルウンジ、サイエンスラウンジ、校務ラウンジを計画している。(報告者)

● 屋上菜園について

- 屋上階にエディブルランドスケープが計画されているが、部分的にもアクセスできるようにならないか。探求学習の中で食の循環や土などいろいろな学びができると思う。安全性も含めて屋上階の動線を検討していただきたい。(委員)
- 東側に屋上階段が2つあり、アクセス可能になっているが、安全面から児童への開放は難しい。授業での使用は可能なように検討したい。(報告者)
- 授業時間は入ることができ、他の時間は鍵を閉めるなど、管理・運用面含めて検討していただきたい。(委員)

● 色彩について

- 建物外壁色について、10YR7/1 というのは良い選択だと思う。コンクリート打ち放しにどのように吹付をしていくのか。(委員)
- 基本的には左官で下塗りをした上で、コテ仕上げを想定している。(報告者)
- 陰影が出て良いと思う。擁壁の色については、10YR7/1 で合わせるのも良いが、明るいため汚れが少し心配である。明度や彩度を下げても良いかと思う。(委員)
- 汚れについては、親水性が高い目地材、光触媒等々のものを使うことで、なるべくセルフクリーニングできるようにしたい。(報告者)
- 擁壁の素材はコンクリート打ち放しのままなのか。(委員)
- 一部吹付はあるが、大半が打ち放しである。なるべく暖色系の建物と同色で仕上げたい。(報告者)
- 温かみが出て良いと思うが、雨などで汚れることもあるため、打ち放しのまま緑を絡ませるという仕上げでも良い。(委員)
- 防球ネットとボールの色について、白みがかったグレーにすることで開放感のある感じになるが、ネットの色味や可視性はどのくらいであるか。(委員)
- 防球ネットは、50 メッシュ程度の化繊ネットを使用予定で、なるべく圧迫感を感じないように、向こうが透けて見えるダークブラウンや黒色を想定している。ボール等々については、ぎらつきが出ないよう検討していく。(報告者)
- 防球ネットの色は 10YR2/1 だと黒っぽいため、10Y R系のグレーベージュが良いかと思う。(委員)

● 南側遊歩道

(案)

- 植栽帯のある部分を少し立ち上げることで、ベンチとして使用可能な空間にできないか。(委員)
- 遊歩道にベンチを設置できないかについては、人が溜まりすぎてしまう懸念もあり、教育委員会と引き続き協議中である。(報告者)

(審議)

- ・渋谷区景観条例施行規則第 30 条の規定により非公開

- (4) 遠藤景観審査会長、第 1 回渋谷区景観審査会の閉会を宣す。